

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第75回）議事概要

- 1 日 時 令和3年(2021年)12月20日(月) 午後2時00分から3時30分まで
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席委員 青委員、上田委員、織田委員、佐藤(幸)委員、関矢委員、中島委員、藤田委員、吉川委員、米村委員、渡辺委員
- 4 事務局 資源循環部 坂下部長
廃棄物対策課 関澤副部長
資源循環政策課 山本課長、大野田係長、大野、中村
資源循環施設課 府馬課長
広域処理センター 大石所長
資源循環久里浜事務所 夏目所長
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

開会

- ・市長が委員へ委嘱書の交付
- ・市長挨拶
- ・事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告
- ・事務局が各委員を紹介
- ・事務局が事務局職員を紹介
- ・委員の互選により、佐藤(幸)委員が委員長に選任
- ・委員長が米村委員を委員長職務代理者に指名

議事

(1) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理（令和2年度実績）（案）について

○佐藤(幸)委員長

それでは議事に入ります。「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進行管理（令和2年度実績）（案）」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

（資料1について説明）

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。今期のごみ処理基本計画の進行管理は今回と次回で終了ということになります。前回の審議会までは令和4年度から7年間を期間とした新しいごみ処理基本計画を審議いただきましたが、本日は今期のごみ処理基本計画の進行管理と来期のごみ処理基本計画の両方を頭にイメージしながらご検討いただきたいと思います。これについてご質問、ご意見等のある方いらっしゃいますか。（上田委員が挙手しているのを見て）はい、上田委員。

○上田委員

3ページのごみ処理経費の推移について、最終処分地が三浦市になり、三浦市のごみについては横須賀市が受け入れることになりましたが、三浦市の分の経費については、三浦市が横須賀市へ支払い、横須賀市の最終処分経費は横須賀市が三浦市へ支払っているということでしょうか。

○事務局

3ページに記載の経費は横須賀市分のみの経費です。エコミルには横須賀市と三浦市のごみが入ってきて、それら进行处理します。処理にかかった費用を横須賀市分のごみ量と三浦市が持ち込んだごみ量の割合で按分して、三浦市分のごみ処理経費を収入としていただきます。逆に、三浦市の最終処分場には横須賀市のごみを持って行っていますので、横須賀市が持って行ったごみ量の按分で経費を負担しています。

○上田委員

せっかく横須賀市は三浦市と広域処理をしているので、市民がこれを見たときに、横須賀市分の経費と三浦市分の経費、そして合計の経費がどれくらいあるのか、きちんと分かるようにしておいたほうがよろしいのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。報告はあくまでも横須賀市として処理した分、それから最終処分に係る経費は按分して示していますが、横須賀市と三浦市は一緒にごみ进行处理しているため、それぞれの経費がわかったほうがいいのではないかとのご意見をいただきました。事務局からご説明できますか。

○事務局

今の段階で具体的に横須賀市と三浦市それぞれの経費がどのくらいかわかる資料がないため、次回、横須賀市と三浦市の割合がいくつで経費がいくらになるかわかる資料をお示できればと思います。

○上田委員

今は経費の話になっていますが、市民としては経費よりも実際に出たごみ量のほうがわか

りやすいと思います。経費についてはこれで構わないと思いますが、横須賀市に三浦市のごみが入ってきて一緒に処理しているのであれば、横須賀市と三浦市は別物なので、それぞれの市からどのくらいのごみが排出されたかわかったほうがいいのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長

全体の経費がいくらで、横須賀市と三浦市が大体どのくらいの割合かというイメージでよろしいでしょうか。

○上田委員

簡単に言えばそういうことです。直にその量を出したほうが一番わかりやすいと思います。

○資源循環政策課長

経費の按分について先ほどお答えできませんでしたが、全体を 100%としますと令和 2 年度実績で横須賀が 90.7%、三浦市が 9.3%という割合でございます。それから、三浦市の受入量につきましては、16 ページのごみ処理実績の「(3) 他市受入れ量」のところに三浦市の燃せるごみ、不燃ごみ、粗大ごみの記載をしておりますので参考にしていただければと思います。

○上田委員

実際の数字は載っていますので、出来る事なら市民に分かりやすくグラフで、横須賀市分としてどれだけごみが出ているか示していただいたらよろしいのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございました。(米村委員が挙手しているのを見て) はい、米村委員。

○米村委員

3 ページについて、三浦市に払った金額がどれくらい最終処分費の中に含まれていますか。また、横須賀市が三浦市から受入れた分については三浦市が横須賀市に払っていると思いますが、この経費はグラフからわかりますか。

○事務局

まず、最終処分費に関しましては、この 1.5 億円は三浦市にお支払いした分とさせていただいていいと思います。

一方で三浦市からいただいた分についてはこのグラフに含まれていません。エコミルで処理した全体の経費から三浦市分を引いた金額が、横須賀市分として負担した経費で、グラフのとおりです。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。処理経費に関しては他の委員も関心があると思いますので、今日

の質疑を簡単なペーパーにまとめて次回出していただければと思います。他にご質問やご意見はありますか。なければ次の議題に移りたいと思います。

(2) 新たな一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の最終案について

○佐藤(幸)委員長

続きまして、「新たな一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の最終案について」の説明を、事務局よりお願いいたします。

○事務局

(資料2から資料3について説明)

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。説明の内容についてご質問、ご意見等のある方はいらっしゃいますか。(織田委員が挙手しているのを見て) はい、織田委員。

○織田委員

37 ページの数値目標では、令和2年度実績の集団資源回収量は約19,000トンで、それに対して目標年度の集団資源回収量は減少しています。一方で、資料1の進行管理の1ページの令和3年度集団資源回収量が増えていますが、これは目標推計値でしょうか。

それとも4月から9か月経過した中での実績値に近い数字なのかお聞かせください。

また、1人1日総排出量について、資料1の1ページの令和3年度では695グラムとなっており、資料3の37ページの令和11年度では807グラムとなっていますが、これからもごみ量が増えていくという予測値として捉えているのでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

織田委員のご質問は資料1の進行管理の1ページと資料3の37ページを対比させたということでお間違いないでしょうか。

○織田委員

はい、資料1の1ページの表と資料3の37ページの表を対比しています。

○佐藤(幸)委員長

織田委員のご質問について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

ごみ量自体は減少する計算をしています。資料1の1ページの1人1日総排出量の目標数値695グラムは集団資源回収を含まない数字であり、資料3の37ページの855グラムのほうが集団資源回収を含む数字となっています。こちらと対比していただくと減少します。

神奈川県や国の実績では集団資源回収を含む数字が使われていますので、新しいごみ処理基本計画ではこちらの数字で一本化していきたいと考えております。

○織田委員

資料1の1ページの集団資源回収量について、平成30年度から令和2年度にかけて減少している中で、令和3年度だけ増加しており基準年度の平成27年度に近い数値となっていますが、何か要因はあるのでしょうか。

○事務局

資料1の1ページの令和3年度数値については実績ではなく平成27年度に作った計画の目標値になります。

○織田委員

4月からこれまでの数値の積み上げで予測値にどのくらい到達しているかわかりますか。

○事務局

実績の積み上げは行っていますが仮の数字となっており、まだ皆様の前にお示しできる基準にはなっておりません。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますか。関矢委員、いかがでしょうか。

○関矢委員

令和2年1月からごみの分別が変わり、製品プラスチックが不燃ごみから燃せるごみになりました。令和2年度の実績を見ると、前年に比べて総排出量は約5,800トン減少しました。

また、焼却量が3,000トン強ほど減少し、埋立量も前年度から3,565トン減少し663トンになりました。これを踏まえると、燃やすこと自体はあまり良いとは思わないですが、経費の削減の観点で言えば、燃やすのが良いではないかとも思います。これらを予測して埋立地の延命を図りプラスチックを燃やすようにしたのでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

関矢委員のご発言内容について、事務局からご回答をお願いします。

○事務局

新しいごみ処理施設エコミルを建てたことにより炉の能力が向上し、南処理工場では燃やせなかったものを燃やすことができるようになったため、プラスチックを燃やすようにしました。プラスチックを燃やすことでサーマルリサイクルしています。

○関矢委員

サーマルリサイクルと言ってしまうと燃やした時点ですべてサーマルリサイクルになりますが、電気に変えるだけでそれはあまり良くないように思います。お金をかけないで処理するにはいいかもしれませんが、このご時世、地球温暖化などの観点から、燃やせばいいという議論はよくないと考えます。

市長からも横須賀市にプラスチックのリサイクル施設ができるというお話がありました。私も気になって話を聞きに行きましたが、その会社で作る紙とプラスチックしかリサイクルできず、その他のものは破碎してチップ状にして燃やすようなことを言ってました。

やはりリサイクルは難しいとは思いますが、葉山町はプラスチックをその会社へ出しているようなので、話を聞いてみたりして、少しでもリサイクルできるような施策の検討をお願いしたいと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございました。10月に閣議決定されました地球温暖化対策計画でも、CO₂削減の手段として、プラスチックのリサイクルと焼却施設による発電の強化が大きな柱になっていますのでエコミルもそれに寄与してると思います。事務局から補足等ありましたらお願いいたします。

○事務局

プラスチックにつきましては市長からお話がありましたとおり、新しい法律が来年の4月から施行されます。現状では具体的にどう動いていくべきか、まだ明確になっていないので、明確になりましたら委員の皆様にご相談させていただきます。

また、市内にプラスチックのリサイクル施設もできますので、うまく活用させていただき、横須賀市としてプラスチックのリサイクルを進めていければと思っております。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますか。(上田委員が挙手しているのを見て) はい、上田委員。

○上田委員

資料1の1ページについて、平成30年度から令和2年度まで年々集団資源回収量が減少しています。私の町内会でもどうしても回収量が増えず、去年並みにするので目一杯です。ですが、令和3年度は増加していますが何か理由があるのでしょうか。

○事務局

令和3年度の数値につきましては実績ではなく、平成27年度のときに設定した目標の数値になります。基準となる平成27年度と比較しても令和3年度の集団資源回収量は減少していますが、なるべく減少しないようにしていこうと設定した目標になっています。令和3年度については9か月ほど経過していますが、どの程度まで持ち直すか、あるいは下がって

しまうか今後見ていければと思います。

○佐藤(幸)委員長

令和3年度の数値については現計画の目標値ということで、来年度にならないと令和3年度の実績値が確定しませんが、今のところ見込みとしてはどのような状況でしょうか。

○事務局

具体的な数値は提示できませんが、令和2年度と同等程度かそれよりも若干少なくなっていると思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。(藤田委員が挙手しているのを見て) はい、藤田委員。

○藤田委員

資源回収についてですが、大体5%ほど減少しています。その中で紙類は10%以上減少しています。その分を埋めているのは金属などになりますが、紙は増えないので資料1の1ページの目標のような数値は難しいです。

毎年、新聞は15%~20%減っており、2040年には新聞が0になります。そうすると、資源回収で何を集めるかということになりますが、金属類は目一杯集めてるので、これ以上家庭から金属は排出されないと思います。

令和3年度の集団資源回収量の23,000トンには届かないと思います。なお、1番回収量が多かったのは平成13年度の38,000トンです。その頃から大幅に減少しており、紙が集団資源回収の主力であり、その紙が減少している現状はかなり厳しいと思います。段ボールを多く集めている町内会もありますが比重が異なるため、新聞がないと令和3年度の数値は無理だと思います。

資料3の37ページの令和11年度における目標数値の13,661トンの方が適当だと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。藤田委員から実態を加味した意見をいただきました。(米村委員が挙手しているのを見て) 米村委員、どうぞ。

○米村委員

皆さん、新型コロナウイルスで苦労されているわけですが、廃棄物に関しても社会環境が変わり始めています。例えばプラスチックで言うと、マイクロプラスチックの問題があり、CO₂削減についてはプラスチックの焼却処理や埋め立て処分に対して逆風が吹き始めています。

エコミルでもプラスチックを安全に燃やせますが、なんでも燃やせるということを前提にしていいかどうかということが問題になります。

また、先ほどの紙の話で言うと、デジタル化に伴いペーパーレスが促進されます。

段ボールについては、コロナ禍で宅配の利用が増えることにより段ボールの需要が増え、リサイクルのメカニズムがより整ってきています。

資料3の37ページで予測値や目標値を定めていますが、このように廃棄物をめぐる環境が変わっていく中で予測そのものが難しいですが、目標を立てたからには予測値から目標値により近づけるために、例えばプラスチックに関してはこのような対策で減らしていく、といった具体的な方策を市民に分かりやすく訴えることで、市民も協力しやすくなるのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。米村委員から、単純に重さではなくリサイクルの種類によってどのような傾向がみられるか議論してみてもどうかというご意見をいただきました。藤田委員にお聞きしますが、新聞紙は重たいように、比重の大小によって多い少ないというような影響を受けていると思いますが、種類ごとのデータはあるのでしょうか。

○藤田委員

グラフとしてはないですが、データはあります。雑誌は少なくなりましたが、先ほど米村委員がおっしゃったように段ボールは多く、現状維持といった状態です。その他の紙についてはわかりません。

○佐藤(幸)委員長

市のほうでは資料という形で作られているのでしょうか。

○事務局

毎月、紙や新聞紙、雑誌などのデータをいただいております。それをもとに集計はしています。しかし、こちらの基本計画に書いてあるような、5年間のデータが1表でわかる形にはなっていません。

○佐藤(幸)委員長

すぐにと話ではありませんが、種類による違いがわかる資料を提示していただき、皆さんで話してみるのも良いのではないかと思います。(藤田委員が挙手しているのを見て) 藤田委員、どうぞ。

○藤田委員

横須賀市では金属も集団資源回収で集めています。他都市では金属を資源回収で集めているところはなかなか無いです。横須賀市では缶・びん・ペットボトルを除き、家庭の金属類は初めから全て集団資源回収で集めていますので、数字を出してみると他の市町村とは異なる結果となり面白いと思います。

○佐藤(幸)委員長

集められる金属類はどのようなものがありますか。

○藤田委員

鍋や物干し竿、自転車などが挙げられます。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。そのようなデータが揃うと面白いと思います。過去に学会等で発表された文献がないか私も少し調べてみたいと思います。(米村委員が挙手しているのを見て)米村委員、どうぞ。

○米村委員

金属について補足しますと、鉄やアルミといった量的に多いものや、デジタル化が進行する中でパーツとして使われる金などの希少金属があります。

鎌倉市では月に一回以上、不要なパソコンや家電製品を無料で回収するという業者がチラシを配っています。

また、若い世代だとフリマアプリの使用が見受けられ、それらはアイクルと比較すると膨大な量の再使用に繋がっていると思います。

先ほど廃棄物処理について問題になるところを挙げましたが、資源化や減量化が促進されるような要因もないわけではないので、そのようなことも含めてごみの減量化や資源化の促進について考えられてはいかがでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。この議論については皆さん興味深いと思いますが、他の議題もありますので次の議題に移りたいと思います。

(3) 災害廃棄物等処理計画について

災害廃棄物仮置場設置・運用訓練の実施報告

○佐藤(幸)委員長

続きまして、「災害廃棄物等処理計画について」と「災害廃棄物仮置場設置・運用訓練の実施報告」の説明を、事務局よりお願いいたします。

○事務局

(資料4から資料5について説明)

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。災害廃棄物対策の訓練は全国各地で試行錯誤しながら自治体を中心に行われています。訓練を行うことで、計画に記載されているとおりにはないこ

とを実感し、災害時に役立つものにしようということで見直されてブラッシュアップされていきます。

説明の内容についてご質問、ご意見等のある方はいらっしゃいますか。渡辺委員いかがでしょうか。

○渡辺委員

災害廃棄物を持ち込むとなると、トラックで運んできてそれを下ろしていく流れになると思いますが、車両によって積まれている廃棄物の種類が異なります。例えば、資料5の2ページに仮置場のレイアウトがありますが、受付の次が家電類になっています。家電類が畳や家具類の下に積み込まれている場合、それらを一回下ろして家電類を抜き出すと非効率的になってしまうのではないかと思います。

2周すると一回下ろす手間がなくなりますが、2周になるので時間がかかってしまうので、スムーズに積み下ろしができる流れを作っていただければと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。災害廃棄物等処理計画の中にも仮置場の配置図があり、ごみ処理基本計画の中でも引用されていますが、廃棄物の種類の順番が異なっています。実際には、被災された方やボランティアの方がトラックに積み込む順番に左右されますが、最初に出しやすいものから配置するなど、かなり試行錯誤されています。

また、燃えるものは隣同士に置かないようにしたり、入口が閉鎖されないようにかさばる家具や可燃物などは受付から離れたところに配置するなどの工夫もされています。そのようなアドバイスなどがあれば事務局にお出しいただければと思います。(米村委員が挙手しているのを見て) 米村委員、どうぞ。

○米村委員

仮置場のシミュレーションについては、やりながらどんどんブラッシュアップしていけばいいと思いますが、仮置場までどのように運び込むかという重要な問題があります。

水害も地震も同じですが、災害時には交通が途絶し土砂崩れにより通れないところもできます。そのような状況で、どこの仮置場へ持って行ったほうがいいのか、持ち込み際のトラックの大きさはどこまで大丈夫か、といった「仮置場までどうやって持ち込むか」について考える必要があります。

今は交通が発達しているのでAIの力を借りるなどして、「この場所が通れなくなったらどういうルートでどこに持ち込むか」といった状況に対応できるシステムを構築することが重要です。例えば、生協の配達の流れを参考に、どのようにごみを運ぶのか検討してみてもどうでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。続けてご意見をいただきます。中島委員、いかがでしょうか。

○中島委員

災害廃棄物等処理計画については、今後詰めていきたいと思いますが、一番気になるのは資料4の2ページに記載されている計画の対象廃棄物についてです。簡単に言うと、一般家庭と避難所から排出されたものが基本的な定義になりますが、例えば、居酒屋が開店して間もないうちに大雨の被害を受けるなどの報道を見かけます。この計画ではそのような店舗は除外になると思います。

しかし、2ページの表を見ると、災害廃棄物という枠の中で、そのような場合の分類ができないのではないかと思います。「この災害廃棄物はどこから出たか」、一問一答しながら分けるのは非常に困難であり、市民へのサービスが減少する気がします。その分け方をどのようにしていくか、あくまでも家庭と避難所のごみだけと言い切るのか、そのような議論が必要ではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。計画の中に対象とする災害廃棄物の定義などが記載されていますが、見直しをするうえで、いただいたご意見を参考にして、より良い計画にしていただければと思います。続いて吉川委員、いかがでしょうか。

○吉川委員

仮置場の訓練について、市民には知られているのでしょうか。

○事務局

非公開にしているわけではありませんが、情報発信等はしていません。

○吉川委員

仮置場への持ち込みは市民が関わってくるので、市民に伝えたほうがいいのではないかと思います。市民に伝えることで、市民が被災した際に持ち込む場所を知り、持ち込みがスムーズになると思います。

また、市民への伝え方として、小学校の訓練といった教育の場を利用することで、子供から各家庭へ、各家庭から周りの人々へ広がり、効率よく発信できるのではないのでしょうか。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。続いて青委員、これまでの議題も含めていかがでしょうか。

○青委員

仮置場の訓練のように災害廃棄物の準備をすることはすごく重要だと思います。災害にも様々な規模がありますので、それぞれの規模について想定することが大切です。米村委員からもお話があったように、交通麻痺は発生する可能性がありますので、想定外のことが起きた時の対象方法ということで、仮置場の候補地は必要だと思います。

また、横須賀や三浦は海洋ごみの問題がどうしても出てきます。台風の後には家電製品等がたくさん打ち上げられました。不燃のものもたくさん流れてきますので、海洋ごみをどうするか、こちらと同じようにシミュレーションが必要ですので、今日の話はその中のスタートの1点として受け止めるべきだと思います。今後は色々な災害に対してどのような備えをするのか、そこがやはり重要であると感じました。

議題全体について振り返ると、上田委員がおっしゃっていたとおり、ごみ処理基本計画の進行管理をするにあたり、三浦市と横須賀市のデータをはっきりさせることが重要であると私も感じました。横須賀市は三浦市と広域化を進めていますが、どのような効果がお互いにあるかについて、市民にしっかり伝えることが必要だと思います。

鎌倉・逗子・葉山の広域連携については確実に進んでおり、ヒアリングや現場視察をした際に、お互いにごみ処理を進めている効果を感じましたが、横須賀市と三浦市には効果があるのかどうかデータからわからないですし、実際の取り組みの状況もわかりませんでした。そのため、上田委員がおっしゃっていたとおり、横須賀市と三浦市それぞれのデータや効果について明確にすることはすごく大切だと思います。

また、新しいごみ処理基本計画の予測と目標について、技術の進歩に伴い新聞が減りスマホの利用が増えたりと、当然社会情勢が変わりますので予測が難しいのは仕方がないと思います。しかし、資料3の37、38ページの数値目標については数字の根拠がわかりません。38ページに数字設定の根拠がありますが、人口減によって目標が作られたように見え、政策による効果を考えて目標数値が立てられていないように思えます。

例えば、神奈川県内では藤沢市が人口増加していますが、1人あたりのごみ量を見ても総量を見ても増えていません。それはなぜなのか追及すると、政策による効果が見られるからです。成功している政策を取り入れ、政策で減らすことは考えているのでしょうか。目標としては物足りないように感じます。委員の方々はたくさんの知見を持っているので、皆さんのお話を伺えればと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますか。（渡辺委員が挙手しているのを見て）渡辺委員、どうぞ。

○渡辺委員

資料1の進行管理について、令和2年度の実績値の記載はありますが、令和2年度の目標値や目標値に対する実績値の割合などの記載はありません。目標値に対して実績値がいくつで、実績値が目標値に届いていない場合、どのような取り組みが足りなかったか、市民に発信していただくと市民の方々も協力してくれるのではないのでしょうか。目標と実績を明確にしていいただければと思います。

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。事務局から進行管理の中で様々なデータを提示していただきましたが、市民目線で分かりやすいデータを今後作っていただければと思います。

その他

- (1) スプリングマットレスの手数料について
- (2) オンライン配信について
- (3) 今後のスケジュール

○佐藤(幸)委員長

続きまして、その他について、(1)「スプリングマットレスの手数料について」、(2)「オンライン配信について」、(3)「今後のスケジュール」とありますので、事務局からまとめて説明をお願いいたします。

○事務局

(資料6から資料8について説明)

○佐藤(幸)委員長

ありがとうございます。追加のご意見がありましたらメール等で事務局へお送りいただければと思います。それでは本日の議事はこちらで以上となります。今後の予定などについて、事務局からお願いします。

○資源循環政策課長

本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容のご確認をいただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要(案)は、作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしくお願いいたします。また、次回の審議会開催は3月頃を予定しております。よろしくお願いいたします。

○佐藤(幸)委員長

本日はお疲れ様でした。これをもちまして、横須賀市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。